

『エウレカ』

作：FOペレイラ宏一朗

『エウレカ』

ただ一言、伝えたい。

登場人物

立花美朝 十五歳 中学生 夏服の制服。

自由研究をしている。

加藤真昼 十五歳 中学生 夏服の制服。

やりたいことを探している。

横田沙夜 十五歳 中学生 夏服の制服。

安心できることを探している。

時と場所

ある夏の終わりの、夕方。学校の教室での、一つの話。

あらすじ

若者を中心としたデモが全国的に展開してからどれくらい経っただろう。もはや若者たちだけではなく、その熱気は様々な世代にも伝播している。国の警官隊とデモ隊との衝突は毎日のように行われていて、最近ではデモの参加者に怪我人が出る事も珍しくなくなっていた。

夕方。

ある学校の教室。

床一面に紙が散らばっている。

教室には物がほとんど無い。

美朝は教室の真ん中で、ペンを片手に持ち、紙に何かを書いている。

真昼は窓のそばに立ち、学校の外を見ている。手にはカメラを持っている。

沙夜は教室の端で寝ている。傍らにはヘルメットが落ちていた。

真昼 —— 人は変わる生き物だ。あの人は変わってしまった、とよく人

は言うが、変わるを進化する、或いは退化するとも言え換えることができる。つまりは生命を進めていく段階で、環境に合わせてどのように適合していくのかを常に考え柔軟に変化していつているのだ。どの能力が必要か、不要かを判断し、白い紙の上に落ちたインクのように、始まりは液体、落ちる頃には球体となっていたその姿は別の場所に落ちた瞬間じんわりと、もしくは大胆にその点を方々に伸ばし、侵食し、新たな一つの姿へとなっていく。これは人間として生まれた我々のみが持っている唯一の能力だ。生命はアートなのだ ——
—— なーんちゃって。

沈黙。

真昼 どう？

美朝 どうって？

真昼 ぼかった？

美朝 ぼかった？

真昼 なんか —— それっぽかった？

美朝 それがわかんない。

真昼 なんかあるじゃん。あの —— アイデア的な。

美朝 それもわかんない。

真昼 なんでよ。なんかよくわかんない本とかに載ってるじゃん。なんか —— 良いことみたいなの書いてあるじゃん。

美朝 マヒルのは中身がないから。

真昼 ちよつと。そんなことないから。私の魂のセリフだよ。

美朝 どこがー。

真昼 本心から思ってるって。生命は素晴らしい。生きてるって素晴らしい。人間讃歌。人生謳歌。

美朝 ——。

美朝、真昼をじっと見る。

真昼 —— なーんちゃって。

美朝 ほらー。

真昼 だってー。

美朝と真昼、沙夜の方を少し見る。

真昼 なんか退屈じゃない？

美朝 そう？

真昼 うん。なんか、こんなことでも言っていないとって感じで。

美朝 わからなくは、

真昼 わからなくはないでしょ？

美朝 —— わからなくは、ないこともないこともない。

真昼 どっちよ。
美朝 自分でもわかんなくなっちゃった。
真昼 なにそれー。
美朝 あ、でも、
真昼 なに？
美朝 なんだっけ、人間国宝？
真昼 え？
美朝 さっきマヒルが言ったやつ。
美朝 人生謳歌？人間讃歌？
美朝 あ、そうそう。それ。
真昼 人間国宝って。
美朝 なんかそれは、ぼいかも。
真昼 あ、賢そう？
美朝 ううん、マヒルっぽい。
真昼 それどっちの意味？
美朝 わかんない。
真昼 ちよつとそれズルくない？
美朝 ズルくない、こともないこともないことも、
真昼 ちよつとー。
美朝 ごめんごめん。
真昼 ってか、そんなの言ったらミアサの方がそうじゃない？
美朝 なにが？
真昼 人生謳歌。
美朝 そう？
真昼 楽しそうじゃん。今も。
美朝 え？

真昼 それ。
美朝 これ？
真昼 だっていつまでもやってるし。
美朝 これは――、
真昼 なに？
美朝 別に楽しいってわけじゃ、
真昼 じゃあ別にやらなくてよくない？自由研究って、だって自由でしょ？
美朝 そうだけど。
真昼 学校なんていつ始まるのかわかんないのに、わざわざ好き好んでやるわけでしょ。――楽しそうじゃん。
美朝 じゃあマヒルもやれば？
真昼 私は無理向いてない。
美朝 向き不向きじゃないでしょ。
真昼 向き不向きだよ。だってそんな自由とか抽象的な丸投げされてもなにを研究したらよござんすか。
美朝 別に自由を研究しろってことじゃないよ。研究対象が自由なの。
真昼 一緒じゃん。
美朝 一緒じゃないよ。
真昼 あ、
美朝 え？
真昼 ――――「自由だー！」って叫ぶ芸人昔いたよね。
美朝 あ、いたいた。
真昼 真似した？
美朝 それはしてない。
真昼 あれ研究すればよくない？
美朝 どういうこと？

真昼 なんぞ？自由だーなんでしょ？

美朝 それは、まあ、うん。

真昼 じゃあいいじゃん。え、それウケるよ。

美朝 やだつまんなさそう。あんまり覚えてないし。

真昼 一回やってみようよ。なんかスツキリするかも。

美朝 趣旨変わってるじゃん。

真昼 ほら、サン、ハイ。

美朝 。

真昼 。

美朝 ちょ、ごめんできないできない。

真昼 なんでよー。

美朝 え、ごめんどうやるんだっけ。

真昼 なんか右手突き上げて、

美朝 なんで右手？

真昼 わかんない。なんかギター担いでたからじゃない？

美朝 あ、右手しか空かないのか。

真昼 そうそう。

美朝 え、で？

真昼 突き上げながら、自由だ。

美朝 。

真昼 サン、ハイ。

美朝 え、こ、こう？

美朝、右手を上げる素振り。

真昼 そうそう。サン、ハイ。

美朝、少し息を整えてやろうとする。

美朝 ーごめんできない。

真昼 なんでよー。

美朝 ごめん。

真昼 なんでできないの。簡単じゃん。

美朝 なんか暑い。

真昼 ま、夏だから。

美朝 そういうことじゃなくて。

真昼 え？

美朝 え？

真昼 ええ？

美朝 なによ。

真昼 意味はない。

美朝 もう、集中するから黙ってて。

真昼 えー、どうしよっかなー。

美朝 邪魔しないでって。

真昼 だってなんか久しぶりじゃない？三年になってからクラス違うし、最

近あんまり喋らないじゃん。

美朝 まあ、そうだけどー。

真昼 休み時間とかでもなんか会わないじゃん。

美朝 ーそうだっけ？

真昼 そうだよ。どうせ高校行ったら別々になるんだし。せつかくのこの時

美朝 ー。

真昼 ま、その高校にも行けるのかわかんないけどね。

美朝は再び紙と向き合っている。

真昼はしばらく美朝のことを眺めているが、しばらくして立ち上がり、窓に近づく。

真昼 ——— 始まった頃かな？

美朝 ——— わかんない。

真昼 クラスの男子とか結構参加してるんだって。

美朝 そうなんだ——。

真昼 ミアサはあれだっけ。興味ないんだっけ？

美朝 まあ—— うん。

真昼 あ、そう—— いや、私も別に興味あるってわけじゃないんだけど——。

美朝、紙と向き合っている。

真昼 ——— なんか、何話していいかわかりませんえん——。

美朝 無理に喋らなくていいですよ。

真昼 まあそうだけど、手持ち無沙汰と言うか——。

真昼は、ふと沙夜の方を見る。

真昼 ———。

美朝 ——— どうしたの？

真昼 いや、サヨ、寝過ぎじゃない？

美朝 え—— わかんない——。

真昼 え、これ—— もしかして、死んでる？

美朝 え？え、

真昼 いやわかんないけど、

美朝 え、でも打ち所が悪かったとか？

真昼 わかんない、

美朝 サヨ、起きた？

沙夜に反応はない。

二人はそのことに不安を感じる。

美朝 ———。

真昼 どうしよう——。きゅ、救急車とか呼んだ方がいいのかな。

美朝 え、携帯持ってる？

真昼 持ってない。美朝は？

美朝 持ってない。そもそも持ってない。

真昼 え、どうしょ。

美朝 サヨが持ってるかも。

真昼 あ、そうかも。あ、でも勝手に使ったら怒るかな。

美朝 わかんない。

真昼 ロックとかかかってたらどうしよう。

美朝 わかんないけど、

真昼 ——— キスだ。

美朝 ——— え？

真昼 ほらあるじゃんキスで目覚めるやつ。

美朝 あ、え、うん。

真昼 キスすると起きるかもしれない。

美朝 どうなのかな。

真昼 やってみないことには、はじまらないでしょ。

美朝 たしかに。

真昼 ほら早く。

沈黙。

美朝 ——？

真昼 ——？

美朝 え、私がするの？

真昼 え？

美朝 え？

真昼 ——え？

美朝 ——え？

沈黙。

真昼 え、どうしたの？

美朝 私がするの？

真昼 急がないと手遅れになるかも。

美朝 私がするの？

沈黙。

真昼 え、じゃあ私がするの？

美朝 え、だって、

真昼 しないよ。

美朝 なんでよ。

真昼 だって、なんかあれじゃん、キスだよ？

美朝 そうだよ。

真昼 私やだよ恥ずかしいもん。

美朝 そんなの言ったら私だってそうだよ。

真昼 今はそんなこと言ってる場合じゃないでしょ。

美朝 マヒルが言ったじゃん。

真昼 だって、だって、せめて城ヶ崎さんとかだったらあれだけど、

美朝 なんで城ヶ崎さん？

真昼 学校一美人の城ヶ崎さんだったらいけど、

美朝 ちよつと、

真昼 だってサヨは友達だしなんかそれで変な感じになったらあれじゃん。

美朝 変な感じってなによ。

真昼 わかるじゃん。

美朝 私だってサヨは友達だもん。

沈黙。

真昼 これはあれだ、じゃんけんで決めよう。

美朝 じゃんけん？

真昼 負けたほうがキスね。じゃん、けん、

美朝 ちよつと。

真昼 何よ。

美朝 それだとなんか可愛そうだよ。勝った方にしないと。

真昼 どっちでも一緒だから。じゃん、けん、
美朝 ちよっと。

真昼 何よ。

美朝 どっちかは決めないよ。

真昼 じゃあ勝ったほうがサヨとキスね。

沙夜、そんなやり取りの最中起きている。

真昼 じゃん、けん、

美朝 あ、ちよっと、

真昼 え？わ、

二人、沙夜が起きていることに気がつく。

沙夜はまだ頭がはつきりとしていない。

三人ともそれぞれ驚く。

沙夜 ———。

美朝 ———。

真昼 ———。

美朝と真昼、お互いをチラッと見る。

真昼 サヨ、よかったー、起きてたんだ。

美朝 起きなかつたらどうしようって心配してたんだよ。

沙夜 ——— あれ、私寝てた？

美朝 気づいてなかったの？

沙夜 あれ———。

真昼 大丈夫？

沙夜 ここどこ？

美朝 教室だよ。

沙夜 三の二？

真昼 そうそう？

沙夜 ——— なんで？

真昼 え、覚えてない？

美朝 デモ隊と警官隊の衝突にマヒルとサヨが巻き込まれて、それを私が見てて、

沙夜 そうだっけ？

真昼 そうだよ。大変だったからここまで運ぶの。

沙夜 ごめん。

真昼 いや、いいけど。

沈黙。

沙夜 ——— そんなに私とキスしたかったの？

真昼・美朝 え？

沙夜 いや、じゃんけんて勝ったら私とキスするって。

美朝 それは、

真昼 そんなこと言っていないよ何言ってるのサヨまだ寝ぼけてるんじゃない？

沙夜 え、でもさつき、

真昼 大丈夫？頭打ったっばいけど？まだ意識が朦朧としているんじゃない？やっぱりちゃんとお医者さんに見てもらったほうがいいかなあ？

沙夜 え、私頭打ったの？

美朝 そうそう、なんか頭押さえてたから。多分そうじゃないかって二人で話してて、もうすぐく心配してて、ね？

真昼 そう、もう大変だったんだから。

美朝 ね？大丈夫？

沙夜 そう—— そうだったんだ、覚えてないなあ。今はあんまり痛くないけど。心配かけてごめんね。大丈夫だと思う。

真昼・美朝 よかったー。

沈黙。

沙夜 二人はずっとここにいたの？

真昼 いやだから、私がここにサヨ連れて来たんじゃない。たまたま一緒に巻き込まれて。

沙夜 あ、そっか。ミアサはなんで？

美朝 私は、まあ——。

沙夜 なに？

真昼 ずっと自由研究やってるんだって。

沙夜 自由研究？夏休みの課題の？

真昼 そうそう。

沙夜 え、学校再開するの？

真昼 しないしない。

沙夜 そうなんだ——じゃあなんで？

真昼 なんで？

美朝 別になんでもいいじゃん。

真昼 ずっとこんな感じなの。

美朝、再び紙と向き合う。

沙夜 ふーん——じゃあ巻き込まれたのって、

真昼 すぐそこ。

沙夜 ——。

沙夜、少し頭を触る。

沙夜 なんで巻き込まれたんだろ。

真昼 たまたまでしょ。

美朝 そもそも二人ともなんであんなところにいるの？

沙夜 なんでだっけ？

美朝 え？

沙夜 え？

美朝 参加してたわけじゃないんでしょ？

真昼 うん。

美朝 理由ないの？

沙夜 なんか、たしか——なんだったのかな。なんとなく？

美朝 なんとなくで巻き込まれちゃったの？

沙夜 いや、なんかあったんだけど、

真昼 大した理由じゃないんじゃない？

沙夜 真昼はなんで？

真昼 私は、写真撮ろうとしてたんだけど。

沙夜 写真？

真昼 これで。

沙夜 そんなカメラ初めて見た。

真昼 そう？確かに古いのかも。

沙夜 なんでそれで撮りたいって思ったの？

真昼 なんかよくない？レトロな感じが。家にあったの黙って持ってきたんだけど、

沙夜 ああ——。

真昼 なんかこの方が馴染むんだよね。

美朝 なんて言うんだっけ、そういうの。

真昼 え、カメラでしょ？

美朝 いや、そうじゃなくて、なんかあるでしょ、呼び方。

真昼 知らない。

沙夜 ——あれ、あれ？

真昼 ——どうしたの？

沙夜 携帯がない。

真昼 あ、やっぱり持ってたんだ。

沙夜 いや、ないの。それ調べようと思ったんだけど、
美朝 見えないよ。

沙夜 え——、じゃあどこだろ。

真昼 いつまではあったの？

沙夜 え、普通にずっと持ってたはずだけど、

真昼 じゃあ巻き込まれたときじゃない？

沙夜 あ、そっか。え、そうなの？

真昼 知らないけど。

沙夜 えー、だとしたらヤバイよね。どうしよ、携帯ないとか普通に死ねる
んだけど。交番とかに届いてないかな。

真昼 今警察も忙しいんじゃない？

沙夜 えー。探しに行こうかな。

美朝 まだ危ないんじゃない？

沙夜 そっか——。

沙夜、窓のほうに近づく。

沙夜 あー、最悪。あのデモか——。迂闊だった。

真昼 迂闊って。

沙夜 もう本当嫌だよ。いつまで続くんだろう。

真昼 わかんない。でもちやうど今やってるころじゃない？

沙夜 何が？

真昼 採決。ね？

美朝 私はわかんないけど。

沙夜 あ、そうなんだ。

真昼 それ次第ってところでしょ。

沙夜 そっか。早く終わって欲しいなあ——。

風が窓から入ってきて、沙夜の髪に流れる。

沙夜 ヘルメットとかそういうの着けなきゃいけないのも面倒臭いし。あ、
でもそれがあつたから助かったのか。え、複雑。

真昼 でもさー、逆に考えるとワクワクもしない？

沙夜 わくわく？

真昼 なんか、時代の転換期に生きてるって感じ？

沙夜 あー。

真昼 なんか映画とかそんな世界じゃん。まるで世界には私たち三人だけみ

たいな。

沙夜　そこまでではないかな。

真昼　えー、そう？

沙夜　じゃあマヒルは賛成派なんだ？

真昼　いや、賛成とか反対とかじゃないけど。

沙夜　どうでもいい派？

真昼　いやなんかそんなのでもないけど――。

沙夜　えーなにそれ。

真昼　わかるじゃん。

沙夜　わからないって。

真昼　なーんこでーよ。ミアサはわかるでしょ？

美朝　わかんない。

真昼　いやちよつとは考えてよ。

美朝　興味ないんだもん。

沙夜　興味ないなら仕方ないよね。

真昼　でも当事者じゃん。

美朝　――え？

真昼　私たち、当事者じゃん。今を生きてる若者なんだから。

美朝　そうかもしれないけど。

真昼　ほーら。そんな意味ないことやっつてないで。

美朝　――。

窓の向こうから大きな音が聞こえた、ような気がする。

三人は一様に窓の方を向く。

沙夜　――今の、

真昼　――聞こえた？

美朝　――うん。

真昼　――はじまったんだ。

沙夜　――わかんない。ここからは見えないけど。

沈黙。

真昼、美朝の書きかけの紙を奪う。

美朝　あ、ちよつと、

真昼　えーなになに、

美朝　返して、

真昼　いいじゃんちよつとくらい。ねサヨ。

沙夜　え？

真昼　興味あるでしょ？

美朝、紙を取り返そうとする。

真昼　ちよつと、

真昼、抵抗し、美朝と一緒に転倒する。

真昼　ちよつと――。

二人、気付けばとても近くにいる。

美朝・真昼 あ、
沙夜 あ、離れないと。

二人、一気に距離を取る。

美朝 —— ごめん。

真昼 あ、私もごめん——。

美朝、紙を取り返して離れる。

真昼 ちょっと、まだ読んでない——。

美朝 ——。

真昼 —— そんなに怒んなくてもいいじゃん。ね？

沙夜 今のはマヒルが悪いと思うよ。

真昼 なんでよ。手伝ってあげようと思ったのに。早く終わらせないとだめでしょ？

美朝 そんなの頼んでないもん。

真昼 だからじゃん。

美朝 え？

真昼 ミアサって前から、困ってるとき素直に言えないタイプじゃん。

美朝 —— 違うよ。

真昼 そうだって。

美朝 違うから。

沙夜 謝った方がいいよ。

真昼 謝ったじゃん。

沈黙。

真昼 あー、暇だな。

沙夜 帰る？

真昼 でも帰ったらもっと暇なんだよね。

沙夜 そう？

真昼 やることなにもないじゃん。

沙夜 じゃあ一緒に携帯探しにきてよ。

真昼 やだ。絶対面倒くさいもん。

沙夜 えー。

真昼 自分の携帯でしょ。

沙夜 また巻き込まれたら危ないじゃん。

真昼 そこはなんか、上手いことやりなさいよ。

沙夜 どうやってよ。

真昼 わかんないけど。

沙夜 じゃあずっとここにいろの？

真昼 ずっとじゃないけど、

沙夜 なに？

真昼 写真撮り終わったら帰る。

沙夜 なんの写真？

真昼 —— 実はさ、そのデモの写真撮ろうと思って。

沙夜 え？

真昼 面白そうでしょ？

沙夜 そうかなあ。

真昼 でもさ、今しかできないことじゃない。

沙夜 えー、—— え、あ、その写真を撮りに行ったの？

真昼 え？
沙夜 巻き込まれたとき。
真昼 いや、そうじゃないんだけど。そんなときは普通に風景とか。でもさ、なんか面白くなかったの。人もいないし、猫とか犬とかもないしさあ。
沙夜 そうなんだ。
真昼 で、こっからならちようど撮れるかもしれないじゃん。
沙夜 へえ——。じゃあそれまで携帯探すの手伝ってよ。
真昼 それは無理ですー。
沙夜 なんてよー。
真昼 なんでも無理ですー。
沙夜 えー。
美朝 ——やめた方がいいんじゃない？
真昼 え？
美朝 写真。
真昼 なんてよ。
美朝 だって——。
真昼 ミアサが言ったんじゃない。
美朝 え？
真昼 自由研究。デモの写真撮るのを私の自由研究にする。
沙夜 ああー。
真昼 これでミアサと一緒にだね、
美朝 そんなの勝手だよ。
真昼 え？
美朝 よくないよ。
真昼 勝手だよ？自由だもん。
美朝 屁理屈じゃん。

真昼 そんなこと言ったらミアサだってそうでしょ。
美朝 私は別に、迷惑かけてないもん。
真昼 わかんないじゃん。
沙夜 どっちもどっちだと思う。
美朝・真昼 サヨは黙ってて。
沙夜 えー。
真昼 写真撮ることがどういう迷惑になるのよ。
美朝 そんなの、撮られたらダメな人とか、
真昼 自分でデモに参加してるんでしょ？
美朝 そうだけど、だからって、
真昼 外国とかだと戦争の被害に遭ってる人の写真撮ったりしてるじゃん。あれよりマシでしょ。
美朝 あれは、どんな状況か世の中の人に伝えるために、
真昼 じゃあ私もそうだよ。
美朝 え？
真昼 私もそういう人になる。それでいいんでしょう？
美朝 ——屁理屈ばかり。
真昼 屁理屈だよ？
美朝 無責任だよ。
真昼 そんなの、当たり前じゃん。だって、みんな無責任なんだから。私だけじゃないよ。
沈黙。
沙夜 あ、ねえ？
真昼 なに？

沙夜 あれ——。

沙夜は窓の向こうを指している。

真昼 あ——。

沙夜 来ちゃったね。

真昼 うん。

沙夜 また衝突するのかな？

真昼 そうじゃない？

沙夜 —— 前よりいっぱいいるよね。

真昼 そうだね。

沙夜 —— 死んだりするのかな。

真昼 —— わかんない。

真昼、カメラを構える。

沙夜 本当に撮るの？

真昼 —— うん。

沙夜 なんで？

真昼 だって、伝えなきゃ。

沙夜 なにを？

真昼 今起きてることを。誰かに。

沙夜 誰かって？

美朝、書きかけの紙を破り捨てる。

真昼 え？

沙夜 ちょ、ちょっと——。

真昼 え、何してんの。

沙夜、美朝を静止する。

美朝 ——。

真昼 何やってんの？

美朝 —— なんか、全部馬鹿らしくなって。

真昼 —— え？

美朝 結局、自分が何したいのか、わかんなかった。色々考えて、言葉とか、

なんかそういう、具体的なものにしたかったけどできなかった。

真昼 それは、

美朝 だから辞めた。どうせ悩んでたし。

沙夜 —— よかったの？

美朝 別に。だって自由でしょ。やるのもやめるのも。

真昼 ミアサ——。

真昼、美朝に近づく。

美朝、そんな真昼に破いた紙をいくつかまとめてぶつける。

真昼 わ、ちょ、ちょっと。

美朝 ばーか。

真昼 —— 何よ。

美朝 —— わかったふりして。

真昼 —— はあ？

美朝 怖いくせに。

真昼 ———。

美朝 何かしてないと落ち着かないくせに強がって。

真昼 ———。なによ、悪い？

美朝 悪くない。

真昼 ———。え？

美朝 全然悪くない。

真昼 どういうこと？

美朝 怖くっていい。不安でいい。落ち着かなくっていい。逃げ出していい。

大人ぶるな！

真昼 ———。

美朝 マヒルはマヒルで、そんな簡単に人間変わったたりしないよ。

真昼 ———。じゃあ、どうすればいいの。

美朝 そのままでいい。変に人の意見に乗っからなくていい。強がらなくていい。誰かのようにならなくていい。

真昼 ———。

美朝 ———。自由だー！

沙夜 え？

美朝 自由だー！

少しの沈黙の後、真昼は笑う。

美朝 自由だー！

美朝は右手を上げて力強く言う。

真昼も同調する。

真昼 自由だー！

美朝 自由だー！

真昼 自由だー！

沙夜 怖い怖い。

美朝 知らない？

沙夜 ———。自由の女神像の真似？

美朝 ———？

真昼 ———。へ？

沙夜 自由の女神像でしょ。そのポーズ。右手に松明持って。左手に——

—あれ、左手に何持ってたっけ。松明はあれ、自由の象徴とか、移民の人とかが迷わずに来れるように世界を照らしてると話で——、

美朝と真昼、お互いに顔を見合わせて、二人、笑い転げる。

沙夜 ねえ、左手に何持ってたっけ。

美朝 ———。

真昼 ———。

沙夜 ねえなんでそんなに笑ってるの。なんか変だった？

真昼 違う——。

美朝 サヨは全然——関係ない——。

沙夜 ええー。なんか私だけ置いてけぼりって感じ。

真昼 ほんと、こんなに笑ったの久しぶり——。

真昼、笑い続けているが、次第に泣く。

二人はその姿を受け入れるように見ている。

美朝は真昼の頭を優しく撫でる。

沙夜 あ、

美朝 どうしたの？

沙夜 思い出した。デモに巻き込まれた理由。

美朝 なんだったの？

沙夜 まあ巻き込まれたって言うか、気を取られた原因というか。

美朝 なんかあったの？

沙夜 デモ隊の中に、城ヶ崎さんがいたの。

美朝 え、学校で一番美人の城ヶ崎さん？

沙夜 そう、学校で一番美人の三の三の城ヶ崎姫子さん。

美朝 反対派だったんだ——。

沙夜 だったんだね。SNSとか見ても全然そんな感じなかったから。

美朝 そうなんだ。

沙夜 なんか、思うところあったのかな。

沈黙。

真昼 —— ねえ、

美朝 なに？

真昼 世界がさ、

美朝 うん。

真昼 —— 世界がもし、このまま、終わっちゃったら、二人はどうする

美朝 大袈裟だね。

真昼 だってそうかもしれないじゃん。

沙夜 えー、私は外国に行くかな。

真昼 外国も終わるの。

沙夜 え、大変じゃん。

真昼 だからそういう話なんだって。

沙夜 えー。

美朝 —— わかんないけど、

真昼 けど？

美朝 —— 生きる？

真昼 —— 生きるだけ？

美朝 うん。とにかく生きる。なにがなんでも。

真昼 なんかそれ、大丈夫？

美朝 わかんないけど——今はわかんなくても、生きてたらまた考えた

り、あと、勝手に世界が終わらなくなるかもしれないじゃん。

真昼 滅茶苦茶他力本願じゃん。

美朝 でも——欲を言うと、願わくば、そのときそこに、真昼と沙夜が

いてくれたらいいかな。

真昼 なにそれ——。

真昼、美朝にキスしようとする。

美朝、それに気がつき離れる。

美朝 え？え、え！え？

真昼 え？

美朝 今なにしようとした？

真昼 なにつてキス。

美朝 なんでキスするの。

真昼 だってそんな雰囲気だったじゃん。

美朝 なによそんな雰囲気って。

真昼 映画とかであるじゃんね？

沙夜 確かに。

美朝 サヨ一。

沙夜 今のは私もキスしなかったもん。

美朝 なんでそっち側なの。

沙夜 でも最初はそっちがキスしたいって言ってたんじゃん。

美朝 いやだからそれは、

真昼、美朝と沙夜を捕まえる。

美朝 え、ちょ、ちよつと、

沙夜 強引、

真昼 あ、いや、違う違う。

美朝 え？

真昼、カメラを見せる。

真昼 記念に撮ろう。

美朝 ——びっくりしたあ。

沙夜 別にキスしながらの写真でもいいんだけど、

美朝 なんでそんなキスしたいの。

沙夜 え、ていうかなんの記念？

真昼 え一、なんだろ。友情記念？

美朝 ダサいな。

真昼 だよね。

沙夜 え、じゃあ独立記念日？

真昼 どういうこと？

沙夜 自由だのほら。

美朝 ちよつと思い出させないでよ。

真昼、カメラをセットし終える。

窓を背にした形。

真昼 はい。じゃあいい？

沙夜 なんか照れるね。

美朝 うん。

沈黙。

美朝 ——長くない？

真昼 え？

沙夜 タイマーどれぐらいにしたの？

真昼 わかんない。

美朝 ちよつと一。

真昼 ポーズとか考えようよ。

沙夜 ポーズはだから自由だの、

真昼 え、やだよ。

沙夜 自分たちがやってたんじゃん。

真昼、ふと窓の向こうに目をやる。

真昼 あ――。

美朝 ー。

沙夜 ー。

窓の向こうで、今か今かと、デモ隊と警官隊が睨み合っている。

美朝 ー。

真昼 ー――生きろー！

真昼は窓から群衆に呼びかける。

二人はその様子を見て少し驚く。

美朝 ー――届いたかな。

真昼 ー――わかんない。

三人の顔が茜色に染まっている。

終わり。